

JR東日本では、2005年度を目標年度とする「環境目標」を掲げています。各項目について、単年度ごとに定量的・定性的に実績を把握し、課題がある項目については、その原因を探ることで次年度への改善策として活用していきます。

環境保全活動の分類	主な活動内容	2005年度目標		2001年度実績	2002年度実績 (内は実数)	評価	参照ページ
		基準値(1990年度)	目標値				
沿線環境 保全活動	新幹線・在来線の騒音対策 (防音壁、ロングレール化など) 川崎火力発電所からの環境汚染物質削減 焼却炉の廃止 有機溶剤等の適正管理 など	東北・上越新幹線の「住宅立地地域」 騒音対策75dB以下	-	100% (2002年度完了予定)	75%	100%	36~38ページ
		自営火力発電所NOx排出量	994t	60%削減	62%削減	60%削減(399t)	
地球環境 保全活動	省エネルギー車両の導入 駅やオフィスビルの省エネルギー化 (コジェネレーションの導入) インターモーダル(パーク&ライド、 レール&レンタカーなど)の推進 など	事業活動に伴うCO ₂ 総排出量	276万t-CO ₂	20%削減	17%削減	16%削減(232万t-CO ₂)	27~31, 36ページ
		自営火力発電所 単位発電量あたりCO ₂ 排出量	726g-CO ₂ /kWh	30%削減	26%削減	29%削減(519g-CO ₂ /kWh)	
		省エネルギー車両比率	-	80%	63%	68%	
		単位輸送量あたり 列車運転用消費エネルギー	20.6MJ/車キロ	15%削減	9%削減	10%削減(18.6MJ/車キロ)	
資源循環活動	駅・列車ゴミの削減、リサイクル (分別回収、リサイクルセンターの整備など) 切符のリサイクル 工場、工事廃棄物のリサイクル 駅で回収した新聞を再生した リサイクルコピー用紙の導入 など	駅・列車ゴミのリサイクル率	-	40%	36%	37%	33~35ページ
		車両工場廃棄物のリサイクル率	-	75%	71%	74%	
		工事廃棄物のリサイクル率	-	85%	76%	84%	
		事務用紙の再生紙利用率	-	100%	97%	98%	
環境マネジメント	本社、支社エコロジー推進委員会による 環境マネジメント 仙台総合車両所でのISO14001認証取得 鉄道沿線からの森づくり 社会環境報告書の発行、環境広告 など	毎年具体的な環境保護活動	-	-	12カ所 2万本植樹 2,000人参加	13カ所 1万本植樹 3,500人参加	21~24, 39ページ
		環境研究開発	次世代通勤電車「ACTレイン」の開発 ハイブリッド鉄道車両「NETレイン」の開発 騒音低減技術開発 など				
社会活動	環境保全に関する団体などへの支援 など						39,50ページ



エコロジー推進委員会副委員長
代表取締役副社長 清野 智

2002年度は、廃棄物の面において、車両工場と施設工事におけるリサイクル率を、2005年度目標に向けて大きく改善することができました。また、東北・上越新幹線の「住宅立地地域」での騒音を75dB以下とする目標は、計画どおり2002年度で完了することができました。しかしながら、エネルギーの面では、単位輸送量あたり列車運転用消費エネルギーや自営火力発電所の単位発電量あたりCO₂排出量は引き続き改善したものの、天候の影響により水力発電所での発電量が減少したことや、駅・オフィスでの電力使用量が増加したことにより、全体としてCO₂の排出量は、わずかに増加してしまいました。2003年度は、CO₂の総量も削減できるよう、各種施策をさらに積極的にすすめてまいります。

2005年度目標達成にむけた進捗度

.....良好
順調
やや遅れ

本年度は進捗度、対前年度比の2つの観点から評価